

生涯の一冊

(48)



■『赤い鳥』

右から第1巻第1号(大正7年7月)、第1巻第2号(大正7年8月)、第1巻第3号(大正7年9月)の復刻版(日本近代文学館 1981年)

ひかり文庫朗読会

豊島区立中央図書館併設のひかり文庫所属ボランティア団体

視覚障害者を対象とした録音図書製作や対面朗読を行なっている。1982年発足。会員数50名。

「目へ読む、耳へ読む」 私たち「ひかり文庫朗読会」は、雑誌や小説・専門書の文字・図表・イラスト・写真等の視覚情報を、全て正確に読み聴覚情報に変える「音訳」という仕事をしています。朗読会発足から36年たちますが、内20年をかけて取り組んだのが児童雑誌『赤い鳥』の音訳化です。創刊者の鈴木三重吉氏が豊島区に縁深かった事から、我々豊島区のボランティアに依頼がきました。メンバー48名によって、創刊号から鈴木三重吉追悼号まで全196冊を完成させました。読むにあたっての苦労は数知れず。まず紙質と印刷の劣化で文字が見えにくい事。老眼に鞭打つ作業です。旧仮名遣いなので、文字通りに

発音すると意味が通じない事。地方に住む少女からの投稿文は、方言と編者が原筆した標準語が並んで書かれていて、それを原文のリズムを壊さず読むのに苦しみました。音訳は固有名詞の読み方を調査して間違い無いよう読むのですが、名称が変わってしまった、もしくは無くなってしまった地名や学校名の追跡調査が大変でした。小学生の詩「みみず鳴く夜」を、思い込みで「みみずく鳴く夜」と読んでしまい校正に出された事も思い出されます。と、大変尽くして懲り懲りしているのでは無いかと思われるでしょうが、その苦労を上回る楽しさがありました。雑誌全体に、現在では失われた情感が感じられ心打たれた事。子供のための読み物と言うには内容がかなり高度な事にも感じました。音訳説明はしなかったもの

の挿絵も楽しみました。また、「早く会費をお支払ください」との催促を読んで、経営が大変だったのかしらと想像したり、投稿した作品が雑誌に載ったかと思う気持ちが嬉しくなったり。さぞや先生も嬉しかったでしょう。何にも増して、子供に良いものを読ませたいという鈴木三重吉氏の情熱がひしひしと伝わってきて、朗読にも熱が入りました。大正・昭和・平成と時代が変わっても、子供でも大人でも、声に出しても目で読んでも耳でも聞いてもしみじみと心に語りかけてくる雑誌『赤い鳥』、復刻版も録音図書も中央図書館の宝物だと自負しています。 ※図書館通信 第24号(平成24年4月発行)に録音完成時の記事が載っています。また、『赤い鳥』は復刻版、テープ図書、デジタル図書が図書館にあります。



図書館と私 35

池袋図書館長 齊藤素子

選ばれる図書館

図書館には、たくさんの方が訪れます。それぞれの求めるサービスもさまざまです。公共の施設ですから、それぞれの利用者へ、どのように求めるサービスを提供していくかは、とても大事なことです。

私自身、図書館員になって、21年目を迎えました。高校時代、「読書の魅力を子どもたちに伝える仕事に就きたい」と考えたことが、私の夢のスタートでした。私にとって、図書館は、楽しい夢のあふれる物語を提供してくれる場所でした。

「図書館」に求められるサービスは、日々変化して来ました。最近では、「課題解決型図書館」という言葉も耳にします。図書館は、読みたい本をただ借りて返すだけの場所ではなく、利用者のニーズに合わせて、それぞれの暮らしの中で生まれる「課題」を解決するためのサポートをするサービスを求められる場所としての機能にも注目されています。図書館において、このサービスはとても重要で、このサービスには、図書館員の資質が大きく作用します。

図書館を訪れると、そこで働く図書館員の愛情を強く感じる場合があります。本の並び、特集、行事にと、そこで働く人の図書館や地域への愛情が感じられるのです。

私たちがどこの図書館を利用するかは、利用者それぞれにゆだねられています。その選択は、立地はもちろん、設備や蔵書の多さからだけでは限りません。そこで働く図書館員の影響も少なくはないはずです。

池袋図書館では、豊島区が2019年の「東アジア文化都市」の国内候補都市に決定したことを受け、今まで力を入れていた東南アジアコーナーに東アジア文化コーナーを追加しました。中国の方にお話をうかがう「アジアを知ろう」という会や、韓国留学生にご協力頂きグローバルおはなし会を開くなど、アジアの文化に触れる機会を創造するなど、池袋図書館ならではの魅力作りにも力を入れています。

この図書館に来てよかった、もう一度訪れたい、そんな選ばれる図書館になりたいものです。



「夜明けのコーヒー、一緒にいかが」という言葉が恋の季節のはじまりを想起させるのは、もう昭和時代の話。現在は、「一緒にオールでもする?」となるのだろうか。いずれにしても、人間という動物は季節に関係なく誰かに恋心を抱き、焦がれる。本は、その心に寄り添ってくれる仲間だ。「読んでからするか、してから読むか。恋の季節」。この本カフェはただいま、そんなキャンペーン中です!

◆今回のテーマ◆

14冊目

恋がしたくなる本



書名『クジラの彼』 有川浩/著 KADOKAWA 2007年

同族会社の商社に勤める中峯聡子が、合コンで知り合った冬原春臣とお付き合いを始めた。ただし、彼は海上自衛隊で潜水艦に乗っているため、次にいつ会えるかわからず、いつでも彼女が別れたければ別れていいと思っている。そんな時に、彼女が職場で社長の息子に気に入られてしまい、毎日の様に仕事を依頼され、行動を共にし、食事と一緒にしなければならなくなる。

彼とはしばらく会えなくなったまま、ある時に事件が起こり、自衛隊が災害出動する大騒動に。彼の事が心配だが、連絡もつかない。でも彼女が危ない目に合いそうな時に、タイミングよく彼が助けてくれたり…。恋はいいなと、聡子は思う。私も、そう思う。

⇒【鈴木 広幸 (すずきひろゆき)】



書名『くまちゃん』 角田光代/著 新潮社 2009年

20代から30代半ばのフリーター、アイドル、イラストレーターなどが登場する連作短編小説。登場人物のひとりが次の話の主役となり、前には見せなかった別の顔をのぞかせます。なれあい、憧れ、打算、尊敬などから生まれた恋が軽いノリで展開しますが、なんとすべてが失恋のお話です。

失恋小説ですが、読後感はさわやかで、エネルギーが湧いてきます。あなたが恋をしたくなるかどうかは、さあ、読んでからの楽しみ!

⇒【古川 依子 (ふるかわよこ)】



書名『ティファニーで朝食を』

トルーマン・カポーティ/著 村上春樹/訳 新潮社 2008年

舞台はニューヨーク。自由奔放だが人を引き付ける魅力的なホリー、戦争により悲惨な幼少生活を送ったためか上流社会を夢見る。確かに大金持ちは寄ってくるが満たされない。同じアパートの作家志望の僕は、「安易に恋愛関係にならない」と誓うが、生きることに一生懸命なホリーに明らかにひかれていく。天真爛漫なホリーと、それを見守り恋する僕。その関係が何とも切ない。「あなたから目が離せない」という感情は、恋の本質かもしれない。

ヘップバーンとは違う村上春樹訳の本作品。でも、「ムーンリバー」は聞こえてきますよ。

⇒【辻 宏子 (つじひろこ)】



寄稿者はとしまコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。マナビトゼミ担当の人類学者佐藤社広氏の指導のもと、毎回テーマに合わせて文学、児童書、評論や科学などの分野からお薦め本を1冊紹介しています。

豊島区とマンガ

(全四回)

豊島区は、100年前

第二回 「から」マンガの聖地

としま南長崎トキワ荘
協働プロジェクト協議会 小出 幹雄

手塚マンガは、楽天と一平から
前回は、戦前にも豊島区には多くのマンガ作家が住んでいたことから、主にトキワ荘の成り立ちとその意義などについて紹介しましたが、実際には、どんなマンガ家たちがどのように豊島区との関わりを持っていたのでしょうか。

戦後もまもなくマンガ家としてデビューしたマンガの神様・手塚治虫は、『漫画の奥義』(講談社)のなかで、「ぼくのマンガ方には、昭和の初めから一種のマンガ史の影響が全部あるんだ」と言っており、日本のマンガを確立したといわれる北沢楽天、そして岡本一平という両巨匠からも多くの影響を受けていたようですよ。

手塚の父親は、大のマンガ好きで、手塚は幼少期から家にあつた『楽天全集』や『一平全集』と親しんでいました。楽天が、福沢諭吉の主筆する新聞「時事新報」の編集部に入社したのは1899(明治32)年23歳のとき。

その後、楽天は、婦人之友社(現西池袋2丁目)が1914(大正3)年に創刊した雑誌「子供之友」の絵画主任として羽



『漫画の奥義』手塚治虫・石子順/著 1992年 講談社

仁吉一、もと子夫妻に招かれ、同社に月に一、二度は顔を出すほどの力の入れようだったらしいです。

福沢が世に出したのが楽天ならば、夏目漱石が激賞したマンガ家が一平です。湯島にあった「中央美術社」は、1923(大正12)年の関東大震災で、同年に東京市外長崎村字荒井(現目白5丁目)に移転します。社名と同じ「中央美術」誌の定期刊行以外にも様々な美術書籍を出版し、一平は同社発行の『新漫画の描き方』を1928(昭和3)年に書いています。

また、同じく中央美術社から同年に発行された『現代漫画大観』(全10巻)は、楽天や一平のほか、彼らの門下など豪華執筆陣による日本初のマンガ全集として有名ですが、この全集も手塚には揃っていません。

一平から山田みゆの、宮尾しげをへ

一平が、1916(大正5)年に児童雑誌「良友」に載せた『珍助絵物語』は、続きもの子供漫画の嚆矢とされています。一平の推薦で朝日新聞に入社した山田みゆは「少年世界」や講談社の「少年倶楽部」に一平と似たヒーローものを描き継ぎ、1920(大正9)年に『忍術漫画』という単行本にまとめました(国立国会図書館デジタルコレクション)のサイトで閲覧可)。また、水戸出身の山田は、晩年現豊島区要町に居住していました。



『忍術漫画』山田みゆ/著 1920年 磯部甲陽堂 国立国会図書館デジタルコレクションより

一平や山田の子供漫画は、副題に「子供絵巻」とあるように、多くはコマものに文章を付けた絵物語的なものでしたが、より本格的に子供漫画の領域を開拓した漫画家といえば、浅草生まれ後に巣鴨に住んだ一平の弟子・宮尾しげをです。

宮尾も当時の漫画家の常道として新聞社に入社し、1922(大正11)年10月から翌年4月まで東京毎夕新聞に初めて「漫画太郎」を連載しました。絵物語形式の四コマ・時代物冒険漫画で子供漫画の長編の始まりといえます。

震災後の後継作品「団子串助漫遊記」は、講談社から単行本化され、1931(昭和6)年には百版を重ね、最初のベストセラー漫画が誕生しました。

宮尾は、講談社の児童雑誌を中心に絵物語を描き続けた後、江戸の庶民文化・風俗や郷土芸能などの書も多く出すようになり、豊島区発行の『豊島の民話』(区図書館で販売中)などにも挿絵を描いています。

講談社とナカムラマンガ

このように、大正期の児童漫画は、「一平」山田「宮尾」の系譜により、ほぼ体系化できます。

時代は昭和に移っても、児童漫画はまだ社会的に認められず、おもちゃ同様の消費財と卑下されていました。手塚は、前述の『漫画の奥義』で「漫画を初めて一種の児童文化財として提示したが、講談社だと思っただけですね」と言っています。そして、講談社の上製本と競っていたのが中村書店の「ナカムラマンガ・ライブラリー」で、このシリーズもまた手塚家に揃っています。中でも1940(昭和15)年に出た大城のぼるの『火星探検』は、手塚がSFマンガを描きたる原点になりました。そのリアルな宇宙マンガの原作者、旭太郎(あさひたろう)こそ、「池袋モンパルナス」の名付け親・小熊秀雄だったのです。

では、小熊やその周辺の物語については、次号で紹介させていただきます。

〈著者プロフィール〉

1958年、旧椎名町生まれ、トキワ荘記念施設置実行委員会、トキワ荘通り協働プロジェクト協議会の事務局長歴任後、現在、としま南長崎トキワ荘協働プロジェクト協議会広報担当、NPO法人日本マンガ・アニメトキワ荘フォーラム理事

読んで観る! 映像・舞台原作の世界(全4回)

(第2回)

私の空想劇団と脳内劇場

立教大学兼任講師 後藤 隆基

作家の井上ひさしは「文学」を「一羽の鳥にたとえていました。頭が詩、胴体が戯曲、両翼が小説(純文学とエンターテインメント)、尾が全体の舵をとる批評だ」と。戯曲とは、いわば演劇の台本のことですが、あまり馴染みがないジャンルがもしもせん。

かつて戯曲は、文学——「読むもの」として、小説と同じように文芸誌に掲載され、本も数多く出版されていました。小説と戯曲を両方書いた作家は大勢います。森鷗外、泉鏡花、菊池寛、岸田國士、永井荷風、太宰治、谷崎潤一郎、三島由紀夫、安部公房……。しかしいつの間にか戯曲は、読み物としての居場所を失ってしまったように思われます。

二〇〇一年、当時大学生だった私は授業の課題で、演劇を観てレポートを書く必要に迫られました。生まれて初めて自分で切符を買って、新宿の紀伊國屋ホールへ。第二次世界大戦後、B級戦犯に問われた元野球選手を題材に戦後の庶民生活を描いた、井上ひさしの『闇に咲く花』(こまつ座)という作品でした。

観劇後、なぜかその台本を「読んでみたい」という気持ちが生まれ、当時の井上戯曲の最新作『紙屋町さくらホテル』を買って読んだのが、私の「戯曲初体験」です。戦争末期に昭和天皇が国内に密使を派遣していたという歴史秘話と、移動演劇隊「さくら隊」が広島で被爆した史実を交差させた喜劇は、戯曲を読む楽しさを教えてくれました。まさかそれが人生の岐路になることは……。以来、井上ひさしの戯曲や小説を次々に読み漁り、いまだに演劇と文学について勉強を続ける羽目(？)になってしまいました。

戯曲は、基本的にせりふと書き(場面や登場人物などの説明)だけで構成されているせいか、読みづらい印象があるようです。私は好きな俳優を勝手に配役し、その人たちにせりふをしゃべってもらっています。空想の劇団は、ときにメンバーを替え、離合集散しながら、たくさん戯曲を(私の脳内劇場で)上演してきました。戯曲は、想像の仕方次第で楽しみ方が変わるような気がします。

演劇を観たら戯曲を読み、読んだ戯曲が上演されたらそれを舞台で観る。そんなふうにして、劇場と本を行き来するのにも一興ではないでしょうか。

〈著者プロフィール〉

立教大学兼任講師、日本女子大学・川村学園女子大学非常勤講師。専門は近現代日本演劇・文学・文化。著書に「高安月郊研究——明治期京阪演劇の革新者」(晃洋書房、2018)ほか。



『最新戯曲集 紙屋町さくらホテル』井上ひさし著 小学館 2001年

図書館イベント情報

★…児童・あかちゃん向け ●…一般向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
 - 駒込図書館 3940-5751
 - 巣鴨図書館 3910-3608
 - 上池袋図書館 3940-1779
 - 池袋図書館 3985-7981
 - 目白図書館 3950-7121
 - 千早図書館 3955-8361
 - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	7月	8月	9月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 14:00	最終日曜日 10:30 11:30	★1日・おはなしこうさく会 14:00~14:30	★5日・こわいおはなし会※ 16:00~17:00 ★25日・夏休みこうさく会※ 18:00~19:30	★2日・おはなしこうさく会 14:00~14:30 ★15日・30日・豊島岡女子学園おはなし会 14:00~15:00
駒込図書館 こまちゃんのへや (※印は地域文化創造館)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00※	●22日・パパ・ママのための調べる学習講座※ 10:00~11:30 ★23日・小学生職場体験 1~3年生:10:00~ 4~6年生:14:00~	★6日・小学生職場体験 1~3年生:10:00~ 4~6年生:14:00~ ★7日・調べる学習応援 14:00~15:30 ★18日・おはなし会※ 14:30~15:30 ★26日・夏休みこうさく会 15:00~15:45	★8日・おはなしをおくろう※ 13:00~16:00
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 15:30	第3火曜日 11:00	★4日・七夕スペシャル 15:30~16:00	★1日・こわいおはなし 15:30~16:00 ★8日・映画会 15:30~16:00 ★15日・かがく遊び 15:30~16:00 ★22日・こうさく会 15:30~16:00	●9日・巣鴨キネマ 14:00~16:00 ★26日・ほんのじかん こうさく会 15:30~16:00
上池袋図書館 おはなしの部屋 (※印は地下ホール)	水曜日 15:00	最終水曜日 11:00※	★16日・しらべる学習教室※ 10:30~12:00 ★21日・映画会※ 14:00~14:30	★11日・こわいおはなし会※ 15:00~15:30 ★18日・かがくこうさく会※ 11:00~12:00 ★25日・映画会※ 14:00~14:30	★1日・映画会※ 13:00~15:00 ★15日・おはなしをおくろう※ 10:00~12:00
池袋図書館 ワークルーム (※印は区民集会所)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00	★23日・30日・夏休みおたすけ隊※ 1~3年:14:00~ 4~6年:15:00~ ●29日・アジアを知ろう※ 14:30~15:30	★11日・平和を考えたお話し 14:30~15:00 ★18日・20日・夏休みおたすけ隊※ 14:30~15:30	★8日・おはなしプレゼント 10:00~12:00 ●16日・終活講座※ 10:00~12:00
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 15:00	第1水曜日 14:00	★7日・なぞとき★調べる学習 14:00~15:30	★4日・こわいおはなし会 14:00~15:00 ★15日・へいわのおはなし会 15:00~15:30	★8~9日・子どもボイス おはなしをあげよう ※両日の希望時間で録音
千早図書館 視聴覚室	第3水曜日除く 15:30	水曜日 10:30	★15日・プラネタリウムおはなし会 15:30~16:00	★19日・工作会 15:30~16:00	★16日・お楽しみ会 15:30~16:00

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。また、図書館ホームページもご覧ください。

図書館 タンテイ

7月28日(土)~8月5日(日)
開館時~午後4時30分

事前申し込み不要、参加費無料です!

対象:小学生

認定証をもらおう!

図書館クイズに挑戦して、
君も図書館タンテイになろう!

図書館にあるたくさんの本の中から答えを探し、

認定証をもらおう!

それぞれの図書館のテーマは次のとおりです。

図書館	テーマ	内容
中央図書館	水の惑星・地球の海底大探検	ここは海の底の図書館。海には不思議がいっぱい!本をつかって楽しくクイズを解いて、海のヒミツをゲット!
駒込図書館	怪人こまちゃんvsこまと探偵団	怪人こまちゃんが図書館の七不思議を本の中にかくした!きみもこまと探偵団に入って七不思議をさがしだそう!
巣鴨図書館	今年も、じぞうトラベルはじめました☆	今年は巣鴨図書館ができて50周年☆じぞうトラベルでは50周年を記念してタイムトラベルツアーをご用意。時間をとびこえる旅へ出発!
上池袋図書館	カミィのワールドツアー	カミィが世界のどこへでも自由にける特別な能力をゲット!でも旅の途中で行方不明になった。クイズを解いてカミィを見つけよう!
池袋図書館	夏だ!祭りだ!謎解きだ!	夏まつりには、謎が散りばめられている!屋台をめぐる、謎を解き明かすことができるかな?
目白図書館	本の迷宮で大冒険! ~迷宮の3つの国を探検しよう!~	ムッシュ・メジロと本の迷宮へ出発しよう!本の中の道しるべを探しながら3つの国を探検だ!
千早図書館	ちはやちゃんと行く、世界のふしぎめぐり!	ちはやちゃんといっしょに、謎解きの旅に出かけよう!キミはぶじにかえってこられるかな?

書評講座~ポップで表現!私に響いたこの本

書評とポップの書き方をレクチャー。館内を巡り歩いて気に入った本やCDなどの書評を書き、ライブ添削を受けられます!作成いただいたポップは中央図書館で展示します。2回連続講座を2期実施。図書館・本・音楽が好きなら、お集まりください!



講師 佐藤壯広氏(書評家)
会場 中央図書館5階会議室
参加費 1,000円(高校生以下500円)

~ 大型図書編 ~

大型図書とは、写真集や美術書などサイズの大きい図書のことです。

日時 7月7日(土) 午後2時~6時
7月21日(土) 午後2時~4時
定員 先着20名(6月11日午前10時より申込受付)

~ AV資料編 ~

AV資料とは、CDとDVDの視聴覚資料のことです。

日時 9月29日(土) 午後2時~6時
10月6日(土) 午後2時~4時
定員 先着20名(8月中旬より申込受付予定)

申込 電話・FAX・メール・直接来館
問い合わせ 中央図書館企画調整グループ
電話 3983-7861 FAX 3983-9904
メール A0027900@city.toshima.lg.jp

子ども点字教室~書いてみよう、読んでみよう~

日時 8月4日(土) 午前10時30分~午後0時30分
会場 中央図書館5階会議室
対象 小学3~6年生(複数での申込み可)
定員 先着15名
申込 7月1日(日) 午前10時から申込受付
点字図書館 電話3983-7864

石ノ森章太郎展

青春時代・下積み時代をトキワ荘で過ごしたマンガ界の第一人者、石ノ森章太郎氏の生誕80周年を記念して、特別展示を開催します。

期間 7月28日(土)~9月27日(木)
場所 中央図書館5階特別展示コーナー

東京2020大会に向けた資料展示

いよいよ2年後の開催に迫った東京2020大会機運醸成を目的に、オリンピック・パラリンピック関連資料展示を行います!

期間 8月25日(土)~9月27日(木)
場所 区内全図書館

『ぶらり長崎一歴史・文学散歩』(伊藤栄浩著)を発行しました!

販売価格 500円
販売場所 区立図書館、行政情報コーナー、郷土資料館、雑司が谷案内処



開館時間	中央図書館	駒込・上池袋・千早図書館	巣鴨・池袋・目白図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
平日 午前10時~午後10時 土日祝 午前10時~午後6時	●駒込・上池袋● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時 ●千早● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時 ※駒込図書館は、平日は、午前8時から資料の返却と、予約資料の受取りができます。	●巣鴨● ●池袋・目白● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時	平日 午前10時~午後7時 土日祝 午前10時~午後5時	
○は土日祝の開館時間 ■は休館日	7月 ① 2 3 4 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	7月 ① 2 3 4 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	7月 ① 2 3 4 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	7月 ① 2 3 4 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
8月	8月 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8月 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8月 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8月 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9月	9月 ② 3 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	9月 ② 3 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	9月 ② 3 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	9月 ② 3 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

●『赤い鳥』の特別講演会へたくさんのご応募をいただきまして誠にありがとうございました!創刊100周年イベントは各地で開催されていますので引き続きお楽しみください(高)
●夏は各図書館でスペシャルイベントをたくさん開催します!ぜひ色々な行事に参加してみてください。(狩)